令和4年度

池田中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○学び続ける力（学びのエンジン）を育成する。
○言語活動を充実させ，主体的対話的で深い学びを目指した授業を展開する。
○「授業のねらいの提示」「振り返りの時間の設定」により，学習への主体性を高め，理解度の定着を図る。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委　　員
石丸千歳（数学）	窪田校長，堀江教頭，元木教務（技術家庭），竹谷（1年主・理科），峰友（2年主・英語），丸岡（3年主・国語），久保（社会），大畑（音楽・特別支援），竹田（美術），徳善（保健体育）

校長

窪田　和弘

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

【各校の取り組み状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等，様々な機会を捉え，取組状況の把握を行う。

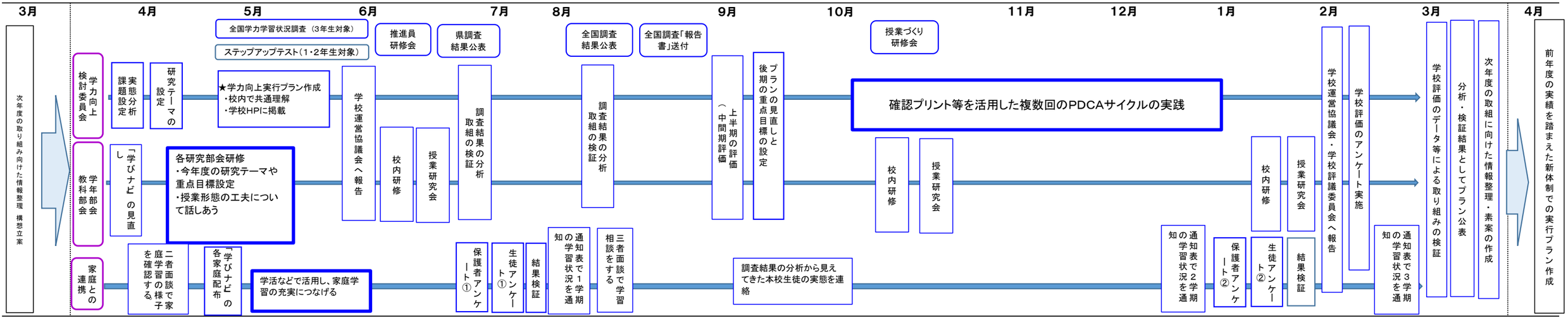
（１）知識・技能の習得

生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子どもの姿）	具体的方策（教員の取り組み）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○真面目で素直な生徒が多く，落ち着いた態度で授業に取り組めているので，学習内容もよく理解できている。 ●家庭学習の充実が図れていない。せっかく理解した学習内容も定着しきれていない生徒がいる。	・基礎的・基本的な知識・技能が確実に身についている生徒。 ・望ましい家庭学習の習慣と学習方法が身についている生徒。	・連絡帳の宿題欄を活用し，計画的に家庭学習が進められるよう指導する。 ・家庭での学習時間の確保が難しい生徒は，保護者と連携しながら望ましい学習習慣を身に付けさせる。 ・自習教室を開設し，基礎学力の定着を図る。 ・生活記録や自主勉強ノートを充実させるとともに，読書時間を確保させる。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子どもの姿）	具体的方策（教員の取り組み）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○グループ活動が班員で協力し思考を深める学習活動として，積極的に前向きに行えている。 ●文末まで正しく言い切る，また論理的な思考を表記するなどの表現活動が上手く行えていない生徒がいる。	・考えることを面倒くさがらない生徒。考えることを楽しむ生徒。 ・判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べることができる生徒。	・さまざまな資料や文章に触れさせ，内容を的確に理解させるとともに，判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べる機会を，グループ活動を十分活用するなどし多く設ける。 ・授業の中で，「書かす」「言わせる」場面設定を多く設ける。また，考えのもと（根拠）を大切にする（言わせる）ため，発問の工夫をしていく。 ・タブレットを効果的に活用し，学びの幅を広げ理解を深める工夫をする。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子どもの姿）	具体的方策（教員の取り組み）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○どの教科の授業にも落ち着いて取り組むことができ，教師の話を聞き理解しようという姿勢が見られる。 ●授業中，発言が消極的な生徒がいる。	・目標を設定して意欲的に取り組む生徒。 ・積極的に手を挙げ，進んで発表する生徒。 ・学んだことを自分の生活や生き方につなげる生徒。	・学び合いの機会を多く取り入れる。 ・掲示カードを活用して学習目標と学習の見通しを明確にし，何をどのようにして学んでいるかを生徒が常に意識できるようにする。 ・わかる喜びを増やすと同時に，ＩＣＴを活用するなど生徒の興味・関心を高める工夫をする。 ・「学びナビ」を活用し，基礎基本の定着を図る。			

令和4年度　学力向上ロードマップ